

答え

②吉田松陰

解説

巖流島の正式名は船島ふなしまです。下関市大字彦島字船島648番地。この島で慶長17年（1612）4月13日、宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘し、敗死した小次郎の号（剣の流派ともいう）から、巖流島とも呼ばれるようになりました。清国が英国に敗北した阿片戦争など風雲急を告げる幕末、吉田松陰は藩命により日本海沿岸の防備を視察しました。彼はこの巡視の記録を「廻浦紀略かいほきりやく」として書き残しています。それによれば、嘉永2年（1849）7月16日の項に「舟に乗りて巖流島に至る。これ佐々木巖流・宮本武蔵激剣し、巖流討たせたりと云ふ。巖流の墓あり。」という意味のことを記しています。

「巖流討たせたりと云ふ」は意味深長な言葉です。小次郎は小倉城下で道場を開き多くの門下生がいたが、弟子たちの乱暴狼藉が激しくて町の人々が迷惑していたので、小倉藩の家老長岡佐渡が武蔵に依頼して小次郎を討たせたのでないか、という説が伝えられています。

《明治維新》

●Q91 文久3年（1863）5月10日、関門海峡で始まった攘夷戦。アメリカ商船ペンブローク号に向けて砲撃するのですが、その合図の最初の一発は下関のどの砲台から放たれたのでしょうか。

- ①前田 ②杉谷 ③壇之浦 ④八軒屋 ⑤亀山

答え

⑤亀山

解説

長州藩は、文久3年（1863）5月10日の攘夷期限に、決行の場を下関海峡と定め、藩兵を下関に集結させました。最初に姿を現したアメリカ商船ペンブローク号に対し、久坂玄瑞くさかげんずい率いる光明寺党こうみょうじは、総奉行の下知を待たずに、5月11日に入った午前2時に、亀山砲台から合図の一発が放たれ、庚申丸こうしんまる・癸亥丸きがいまるに乗って出撃していた光明寺党は両艦から砲撃をしました。第一次攘夷戦において、攘夷の

第一弾を放った浪士隊は、光明寺を屯所としたことから光明寺党といわれています。光明寺は、細江町の中通りにあり、昭和20年(1945)の大空襲で周囲が焼失し、その炎は石垣まで迫ったが無事焼け残り、久坂玄瑞ら浪士隊の人たちが居住した当時のままの姿を今日に伝えています。

🌐 Q92 外国船打ち払いはアメリカ商船、フランス軍艦、オランダ軍艦と続きますが、アメリカ軍艦に報復され、さらにフランス軍艦2隻の襲来を受けます。このときは一方的に負け、ついには上陸を許しました。このとき占拠された砲台はどこだったでしょうか。

- ①前田 ②杉谷 ③壇之浦 ④八軒屋 ⑤亀山

答え ①前田

解説 外国船打ち払い(攘夷)は、アメリカ商船、フランス軍艦、オランダ艦船と続きました。ところがこの知らせを受けたアメリカ軍艦ワイオミング号が6月1日に海峡に姿を見せ、砲撃して長州の軍艦、壬戌丸・庚申丸を撃沈し、癸亥丸に再起不能の損傷を与えて去りました。さらに、6月5日、フランス軍艦2隻が来襲し、前田、壇之浦の砲台に弾丸を射ち込みました。そして、フランス軍は、陸戦隊70人、水兵180人の兵力で、前田の東海岸に上陸、前田の砲台を占拠し、大砲を使用不能にして引き上げました。

🌐 Q93 外国船の報復によって多大な被害をこうむった下関の防御を命じられた高杉晋作が下関にやってきます。このとき高杉は身分を問わない有志による隊を結成します。この隊の名前はなんといひますか。

- ①義勇隊 ②遊撃隊 ③御楯隊 ④奇兵隊 ⑤集義隊

答え ④奇兵隊

解説 長州藩は、外国船打ち払いをしたが逆に報復を受け被害をこうむっ

たため、下関の防御を高杉晋作に命じました。文久3年（1863）6月6日、高杉晋作は竹崎で回船問屋を営む白石正一郎邸に入ります。このとき晋作は、新しい戦力としての有志隊、すなわち「奇兵隊」の結成を白石邸において直ちに着手しました。身分を問わない有志隊として組織された戦力で、藩の正規兵に対する非正規兵、「正」に対して「奇」の兵隊、奇兵隊がここに誕生したのです。

Q94 奇兵隊結成の地として知られる、白石正一郎宅。結成当時の建物についての説明のうち、正しいものはどれでしょうか。

- ①当時の建物は一切残っていない
- ②浜門が長府松小田に移築されて現存
- ③浜門が長府川端に移築されて現存
- ④表門が長府松小田に移築されて現存
- ⑤表門が長府印内に移築されて現存

答え ②

解説

高杉晋作は文久3年（1863）6月6日夜、竹崎の清末藩・勤皇商人白石正一郎宅に来て、奇兵隊結成の協力を求めました。鈴木重胤^{しげたね}門下の国学者であり、尊皇の志士たちの良き支援者であった白石正一郎は、屋敷を当面の本陣として提供し、自ら会計方として入隊します。弟の廉作^{れんさく}も共に入隊し、攘夷戦で破壊された前田砲台修理のため、竹崎の商人を引率して「報国尽忠」の旗のもとに参加しました。奇兵隊の結成は6月8日とされています。当時の白石邸の建物は現地には残っていませんが、西郷隆盛、坂本龍馬、平野國臣など、有名無名の400名もの勤皇の志士たちが出入した海に面した「浜門」は、長府松小田に移築され現存しています。なお白石邸があった場所は現在中国電力下関営業所になっており、「白石正一郎宅跡」「高杉晋作 奇兵隊結成の地」などの碑が建っています。

Q95 高杉晋作が奇兵隊を結成した場所は、下関の回船問屋・白石正一

郎の家でした。かれは、奇兵隊にも入隊、家財をなげうって維新を支援しました。さてこの回船問屋の屋号はなんといったでしょうか。

- ①角屋 ②薩摩屋 ③大阪屋 ④中津屋 ⑤小倉屋

答え ⑤小倉屋

解説 白石正一郎は回船業・小倉屋を営んで富を築いた豪商で、高杉晋作をはじめとする維新の志士たちを物心両面で支援しました。奇兵隊は文久3年（1863）6月8日、この白石邸で結成され、白石正一郎も隊士となりました。竹崎町に白石正一郎宅跡碑を昭和37年（1962）12月25日建立。石碑の高さは140cm。約400人にも及ぶ志士たちがここを訪れ、海に面した裏門（浜門）より舟で出入りしました。坂本龍馬は文久2年（1862）3月土佐藩を脱藩し、最初に足を向けたのが下関で、4月1日頃に白石正一郎邸を訪問。以後たびたび下関を訪問しています。

Q96 吉田は「奇兵隊のまち」といわれていますが、奇兵隊が吉田に転陣した当初は、各寺院などに分宿していました。では、鳥尾小弥太（のち陸軍中将）が率いる少年隊が駐屯していたのは、どこでしょうか。

- ①長慶寺 ②末富家 ③吉田宰判勘場 ④松林寺 ⑤法専寺

答え ④松林寺

解説 吉田には、山陽道と萩街道の分岐点があります。そこには江戸時代に高札場がありました。その向って右隣に松林寺があります。現在、本堂は昭和23年（1948）の大火で焼失したままとなっています。松林寺には奇兵隊の鳥尾小弥太が少年隊を率いて駐屯していました。寺にいたチルという婦人が隊士の面倒をみていたといわれ、明治になって彼らが出世したのを自分の事のように喜んだそうです。鳥尾小弥太は少年たちを引き連れて、吉田の町の石地藏の首を斬って歩いたといわれています。庄屋の末富家は、奇兵隊の本堂となりました。当主の

末富虎次郎は、物心両面から奇兵隊を援助します。彼は山縣狂介（有朋）と親しく、山縣は結婚するまでの二年近くを末富家の二階の一室に下宿していました。末富家の当時の建物が現在も残っています。外観は改装され、変わっていますが内部は当時の面影を残した貴重な建物です。なお、高杉晋作の葬儀は、末富家で行なわれました。

Q97 吉田は「奇兵隊のまち」といわれ、奇兵隊の史跡も多く残されています。では、奇兵隊が吉田を本拠としていたのは、何時から何時までだったのでしょうか。

- ①慶応元年（1865）4月から、明治2年（1869）11月まで。
- ②慶応元年3月から、明治2年10月まで
- ③慶応3年（1867）8月から、明治2年11月まで。
- ④慶応元年5月から、明治2年12月まで。
- ⑤慶応元年3月から、明治2年10月まで。

答え ①

解説

「新しい時代を拓く」気概にあふれた奇兵隊士たち約400名は、四年半の間、吉田を本拠にしていました。慶応元年（1865）4月、吉田に転陣した奇兵隊は、当初寺院などに分宿していました。慶応3年（1867）8月、諏訪に陣屋を設け、明治2年（1869）11月の解隊まで、その陣屋を本拠にしていました。陣屋での生活は毎日6時朝食、8時までは講堂で漢学を学び、9時から練兵場で、小隊、大隊、散兵、馬術などの教練。昼食後、2時から随意外出。外出は隔日で5人を一組とし、吉田村内のみを散策することを許し、もし帰郷時刻に遅れたときは処罰したそうです。奇兵隊は吉田の地から、四境戦争小倉口の戦いにも、戊辰戦争にも出陣したのです。

Q98 吉田の東行記念館に「奇兵隊燈籠」があります。慶応2年（1866）四境戦争小倉口の戦いで、小倉赤坂の延命寺にあったものを奇兵隊が吉田本陣へ移したもので、本来ない元号の「元治三年冬立 奇兵

隊」と記されています。また小倉口の戦いで戦死した奇兵隊士など、維新殉難者の墓碑にも「元治三年」と記されているものがあります。下記のうち「元治三年」の墓碑がないのは、何処でしょうか。

- ①了圓寺（太平町）
- ②本行寺（赤間町）
- ③東行庵（吉田）
- ④赤坂墓地（北九州市小倉北区）
- ⑤光明寺（細江町）

答え ⑤光明寺（細江町）

解説 光明寺（細江町）以外の墓地には、「元治三年」と記された維新殉難者の墓碑があります。元治2年（1865）4月に慶応と改元されているので、元治3年とは慶応2年（1866）のことです。慶応という元号は一橋慶喜（徳川十五代将軍）によしのぶ 応じるとも読めるので、長州では使うのを嫌い、元治の元号を使う者が多かったのです。「元治三年」と記された燈籠や墓碑は、当時の長州藩の徳川幕府や慶喜に対する感情がよく分かる記念物ともいえます。なお元治2年（1865）1月、長州藩内訌戦の際、諸隊本陣が置かれた美東町大田金麗社にも「元治四年」と記された奇兵隊燈籠があります。奇兵隊が記念として奉納したものです。

Q99 高杉晋作が下関で創設した奇兵隊は、有志の集まりであり、身分を問わず入隊でき、力量を貴ぶという、当時としては画期的な軍隊でした。その後、奇兵隊に続き、多くの有志の部隊が結成されました。長府藩で結成された「報国隊」に関連する説明で、誤りはどれでしょうか。

- ①元治元年（1864）11月、青年藩士たちが当時忌宮神社にあった長府毛利初代藩主秀元を祀る豊功社に詣で、国家の大事に挺身しようとして堅い盟約を結びました。これが後に報国隊結成へとつながっていきます。
- ②報国隊は元治2年（1865）2月14日、長府藩が許可し正式に結

成されました。

- ③長府藩の記録「毛利家乗」には「…兵卒は士民を問わず、その子弟強幹なる者を募撰するを得、専ら赤間関海口を扼せしむ。司令指揮士に至りては総て門閥世臣を以って之に充つ。」という意味のことを記しています。
- ④報国隊には、長府の松下村塾といわれた「集童場」の少年たちも盟約血判して、入隊しました。
- ⑤満珠・干珠の眺めが素晴らしい豊功神社境内には、「長府藩報国隊顕彰之碑」が建立されています。

答え

①

解説

当時、住吉神社にあった藩祖秀元公の廟に詣で、盟約を結びました。その後、慶応2年（1866）忌宮神社境内に秀元公などを祀る豊功社がつくられました。明治10年（1877）豊功神社と改称。そして大正6年（1917）、藩祖秀元以下歴代の藩主を祀った豊功神社を、忌宮神社境内から現在地（長府宮崎町）に移し、この地にあった松崎八幡宮を合祀しました。豊功神社に建つ「長府藩報国隊顕彰之碑」（昭和61年建立、中原郁生撰文）には「…奇兵隊に準じ、武士以外の者も入隊を許し結成された報国隊は、小倉戦争および北越戦争に従軍、特に北越戦争には405人が出陣、150余日にわたる転戦、57回の激戦に戦功を立て官軍を勝利にみちびき、明治維新の鴻業に偉大な足跡を残した。」と記されています。なお集童場の少年たち16名が署名血判した盟約状の筆頭に、乃木無人源頼時のぎ なきと まれ すが（のちの希典）の名があります。後の乃木將軍は慶応2年（1866）四境戦争小倉口の戦いに、報国隊士（砲一門と部下を持つ指揮官）として参戦します。これが乃木さんの初陣で、18歳でした。

Q 100 長崎の砲術家で、攘夷戦の際に指南役として長州藩に招かれていましたが、軍議において反感を買い暗殺された人は、だれでしょうか。

①真木菊四郎

②郡司喜平治

③高嶋秋帆たかしましゅうはん

④中島名左衛門

⑤佐久間象山

答え ④中島名左衛門

解説 中島名左衛門は肥前に生まれ、高島秋帆に砲術を学んだ長崎の砲術家で、攘夷戦の際、砲術指南として長州藩に招かれていました。文久3年（1863）5月、軍議において軍備の不備を率直に指摘したため反感をかい、その夜新地の藤屋（妙蓮寺そば）に宿泊中、暗殺されました。妙蓮寺に墓があり、墓碑は明治35年（1902）11月に建立されました。

Q101 攘夷戦第一弾を亀山砲台から放ったことで知られる光明寺党が駐屯していた光明寺は、当時の本堂が残っており貴重な維新史跡のひとつになっています。白石正一郎日記によれば「文久3年（1863）5月6日、〇〇が狐を光明寺へ持ち込み食した。」という意味のことを記しています。〇〇とは、誰でしょうか。

- ①高杉晋作 ②中山忠光 ③久坂玄瑞 ④山縣狂介
⑤赤祢武人

答え ②中山忠光

解説 文久3年（1863）5月6日の白石正一郎日記。「中山公子今日又狐狩に御出 長府より御獵方来る 得もの狐壺正光明寺へ御持行被召上候」とあります。血気盛んな中山公や、光明寺党の面々の様子がしのばれます。軍艦癸亥丸は、英国製ランリック号。光明寺党の面々は、艦首像を切り取って本堂階段下に置き、出入のたびにその像を蹴飛ばして、攘夷の思いを高揚させていたという。久坂玄瑞が率いる光明寺党には、浪士だけでなく赤祢武人、入江九一、吉田稔麿、山縣狂介（有朋）、山田彰義、野村靖など長州藩の錚錚たる人物もいました。後に奇兵隊に多く入隊しています。光明寺本堂表側の柱には、光明寺党の面々が武器で付けたといわれる傷が、現在も残っています。

● Q102 関門海峡で外国船打ち払いを執行した翌年、報復として四国連合艦隊17隻が下関に来襲しました。長州藩が攘夷決行として砲撃を加えた船の国は、アメリカ、オランダ、フランスでしたが、この3国以外の国が連合艦隊の主力でした。その国はどこでしょう。

- ①ロシア ②ポルトガル ③イギリス ④スペイン ⑤ドイツ

答え ③イギリス

解説 文久3年(1863)の政変によって、京都堺町御門の警衛の任を解かれた長州藩は、翌元治元年(1864)7月御所の警備についていた会津藩などと交戦して敗北しました(禁門の変)。幕府は朝敵として元治元年(1864)長州征伐の軍を起こします。そうした最中に、外国船打ち払いの砲撃の報復として、米英仏蘭四国連合艦隊17隻が下関に来襲しました。なかでも、これまでの砲撃に全くかわりないイギリスが9隻の船を連ねて主力となりました。

Q103 文久3年(1863)攘夷戦が始まり、長府藩主の居館は外国軍艦の艦砲射撃を受けます。大騒動となり、女性たちは避難しますが、その様子を記した老女の手紙が残されています。その手紙の内容と異なる説明は、どれでしょうか。

- ① 6月5日朝、フランス軍艦が満珠・干珠の近くから居館に向かって大砲を打った。
② 奥方の一行は、井田村の来福寺に避難した。
③ お供の女中は、6畳の部屋に12人も押し込められた。
④ 三度の食事は、黒椀に1ぱい、梅干に沢わん2切。
⑤ 寺の壁はぬけ、湯殿もなく、奥方は雨天には傘をさして行水した。

答え ③

解説 来福寺に避難した一行の中には、藩主元周の叔父毛利元運の未亡人欽麗院も加わっていました。彼女は土浦藩の出で、土浦藩当主の

姉になります。彼女が長府藩へ輿入れのとき付き添って来た老女が、国許に報告した手紙が残されています。それによれば「奥方の一行は、お供して来ている女中だけでも二十二人も居り、六畳の部屋に十一人も押し込められ、夏なのでむれる。」という意味のことを記しています。③以外は、そのように記されています。

Q 104 文久3年(1863)、長州藩は攘夷を決行。長府藩主毛利元周^{もとかね}は、海岸近くの藩邸は危険ということで、御殿を急造しました。この御殿はどこに造られたでしょうか。

- ①一の宮 ②勝山 ③内日 ④山の田 ⑤奥山

答え ②勝山

解説 文久3年(1863)長州藩が攘夷を決行し、関門海峡の外国船に砲撃を開始。長府藩主毛利元周は、外国船の報復攻撃に備えて、海岸に近い串崎城麓の藩邸を離れ、覚苑寺^{かくおんじ}に仮住まいします。そして、勝山の田倉にわずか7か月で急造した藩邸が勝山御殿です。元治元年(1864)2月に完成し、廃藩置県まで存続しました。

Q 105 ^{げんじ}元治元年(1864)8月の馬関攘夷戦争(下関戦争)で、長州藩は敗北しました。高杉晋作は講和会議の責任者として、家老^{ししど}宍戸備前^{びぜん}の養子^{ししどぎょうま}で宍戸刑馬と名乗り四国連合艦隊の旗艦ユーリアラス号に乗り込みます。この講和会議に関連する説明のうち、誤りはどれでしょうか。

- ①高杉は8月8日、10日、14日と会談を行なった。
②下関海峡の自由な通航と、下関港の実質的な開港を認めた。
③賠償金300万ドルの支払いは拒否した。後に幕府に請求することとなった。
④彦島租借要求は拒絶した。(伊藤博文談)
⑤米国のみ、後で賠償金の元金を返してくれた。

答え

①

解説

講和談判は8月8日から始まりました。晋作は藩主から拝領の五七の桐紋入り、萌黄色もえぎ いろの直垂ひだたれを着、黒の烏帽子を着用の正装で、旗艦キューリアラス号に乗り込みます。英国帰りの伊藤俊輔（博文）、井上聞多もんた かむら（馨）は通訳をして晋作を補佐。連合軍側の代表は英国のキューパー提督で、通訳はアーネスト・サトウ。第2回の談判は8月10日。しかし晋作は病気という事で出席していません。講和に反対する攘夷派から生命を狙われたので、伊藤と共に船木（楠木町）に潜伏しました。第3回の談判は8月14日。晋作は伊藤、井上、宍戸備前たちと出席します。この日、事実上の下関開港（石炭、水、食料などの供給）や、下関海峡の自由通航と砲台の新築・修理をしないことなどは認めました。しかし賠償金300万ドル（長州藩50年分位の収入）支払いを拒否します。結局幕府が支払う事となりました。（半分程払って幕府が倒れ、残りは明治新政府が払っています。）また彦島租借要求を断固拒否したと言われています。明治42年（1909）7月、世界に名を知られる大政治家となっていた伊藤博文が、軍艦満洲の船上から彦島を見て往事を回想し、語ったといします。「・・・今から考へて見ると危い所ちゃった。・・・さうなれば此の島は丁度今日の香港と同じことになるし、馬関まかんは九龍となる所ちゃったらう、考へるだけでも身の毛の竦立つ談しぢゃ。・・・」（伊藤公全集第三卷、彦島懷舊）なお米国のみは明治16年（1883）賠償金の元金を返還しました。（その時点では利子の方が元金より多かったという。）その金は横浜港防波堤工費などに充当されました。（国史大辞典）

Q 106 アーネスト・サトウ（駐日公使）は、『一外交官の見た明治維新』の著述のなかで、元治元年（1864）8月、下関の大坂屋（現東京第一ホテル）で伊藤俊輔（博文）から西洋料理の饗応を受けたと記しています。その献立の中で素敵にうまかったという一品を記していますが、その一品とは次のうちどれでしょうか？

①アワビの煮たもの

②スッポンのシチュー

- ③みりんにつけた柿のデザート ④煮たくろはぜ
⑤鰻の焼いたもの

答え ③みりんにつけた柿のデザート

解説 長州藩は1863（文久3年）5月、攘夷運動として関門海峡を通航する外国船に向けて沿岸の砲台から攻撃を開始します。翌年8月に四国連合艦隊17隻が報復のため海峡に集結し、長州軍と砲火を交えます。結果は長州軍の大敗北となり、高杉晋作が和議使節を命じられ穴戸刑馬ししどぎょうまの名で講和談判にあたります。8月14日に講和は成立しましたが、この戦争を知った伊藤博文と井上馨かおるは急遽イギリスから帰国し、講和成立に助力しています。イギリスの通詞はアーネスト・サトウで伊藤博文は精魂こめてヨーロッパ風の食事を用意し、饗応につとめました。この時の料理は、日本国内で最初の西洋料理だったかもしれません。

🎧 Q 107 馬関攘夷戦争（下関戦争）後、四国連合との和議交渉を任された高杉晋作が「彦島の租借」を撤回させたことは有名ですが、この戦争で日本政府が支払った賠償金の額はいくらでしょうか。

- ①100万ドル ②200万ドル ③300万ドル
④400万ドル ⑤500万ドル

答え ③300万ドル

解説 馬関攘夷戦争（下関戦争）は、長州藩と英・仏・蘭・米との間に起きた武力衝突です。長州藩はこの戦いに敗れ、幕府は300万ドルもの巨額の賠償金を請求されました。幕府はこれを受け入れ150万ドルを支払い、残りは明治7年（1874）までに分割で支払いました。

Q 108 前田砲台跡は、世界遺産「九州・山口の近代化産業遺産群」として、日本国の暫定リストに登録された正式候補地です。馬関攘夷戦争（下関戦争）の際、前田砲台は2回も外国軍に占領され、付近の

民家も大変な被害を受けました。それは、いつのことだったでしょうか。

- ①文久3年(1863)6月1日と5日
- ②文久3年6月5日と元治元年(1864)8月5、6日
- ③文久3年6月1日と元治元年8月5、6日
- ④文久3年5月26日と6月5日
- ⑤文久3年6月5日と元治元年8月8日

答え ②

解説

馬関攘夷戦争(下関戦争)は計6回行なわれました。①文久3年(1863)5月10日、米商船ペンブローク号を砲撃。②同年5月23日、仏軍艦キャンシャン号を砲撃。③同年5月26日、オランダ軍艦メジュサ号を砲撃。④同年6月1日、米軍艦ワイオミング号が報復に来襲。庚申丸、壬戌丸は沈没、癸亥丸は大破など大損害を受けます。⑤同年6月5日、仏軍艦セミラミス号、タンクレード号が報復に来襲。仏軍が前田に上陸し、砲台を破壊。農家22戸と本陣慈雲寺を焼く。6回目の翌元治元年(1864)8月5日から開始された、馬関攘夷戦争(下関戦争)は激戦でした。英米仏蘭四国連合艦隊17隻の軍艦が来襲し、初陣の奇兵隊など長州軍は敗北します。8月5日、6日にかけて、前田砲台には英国海兵隊、陸戦隊、米軍、仏軍、蘭軍など計2,600人ほどが上陸。砲台を占領破壊、大砲28門を略奪され、さらに前田村内の23戸が放火されて焼失しました。(「前田回顧百二十年」より)この時、前田砲台が外国兵に占領されている写真は、中学、高校の歴史教科書にも掲載されています。6回目の馬関攘夷戦争では、外国軍艦の砲弾2,500発余りが射ち込まれ、平成の御代になっても不発弾が発見されています。長州軍の戦死者15名、外国軍の戦死者12名。敗れた長州藩は尊皇攘夷の藩論を尊皇倒幕・開国へと大きく転換します。これは明治維新、日本の近代化へとつながる重大な意義を持つものでした。また英国は戦争を経験した事で、逆に長州藩に好意を寄せるようになりました。

Q 109 さんじょう さねとみ 三条実美ら五卿は元治元年（1864）11月、それまで滞在していた湯田を脱し、長府毛利藩を頼って同17日功山寺に入りました。長府毛利藩主の拒絶を押しての功山寺入りなので、大変困った様子を尾崎おさき三良さんりょうが「尾崎三良自叙略傳」に書き残しています。記されていることと異なるのは、どれでしょうか。

- ①僧徒が同情して本堂、庫裏などを貸してくれた。
- ②本堂の仏前に供えてある冷飯を、従者たちが争奪して食べた。
- ③本堂板の間に横になり、互いに抱き合って暖をとり、仏像を引き下ろして枕にした。
- ④携帯していた布の横幕を頭から、かぶって寝た。
- ⑤従者にも長府藩主から差し入れの食料が贈られた。

答え ①

解説 尾崎三良は三条実美の従者で、七卿落ちに従います。「尾崎三良自叙略傳」には、当夜功山寺での出来事などを生々しく記しています。「俄かに城下の山手にある古刹功山寺に投宿することとなり、僧徒を強迫して其の本堂および庫裏、両三室を借り先ず之に投ず。・・・」とあります。②から⑤は、そのように記しています。また「朝起きて互いの顔を見れば、その顔面が真黒で両眼のみキョロキョロ光り、ほとんど悪鬼のようだった。これは蒲団の代わりにかぶった横幕の紋の濃墨が顔面にすり付いたものだ。」という意味のことも記しています。

● Q 110 た すき 下関市豊北町田耕で刺客により殺害された、天誅組の主将で、明治天皇の叔父にあたる人は誰でしょう？

- ① なかやま ただやす 中山忠能
- ② 藤本鉄石
- ③ なかやま ただみつ 中山忠光
- ④ けいどう 松本奎堂
- ⑤ 吉村寅太郎

答え ③中山忠光

解説 中山忠光は、明治天皇の母方の叔父に当たり、文久3年（1863）

天誅組の主将として勤王の兵を大和五条に挙げたが戦利なく、長州に逃れ転々とし、元治元年（1864）田耕（下関市豊北町田耕地区）に滞在していたが、長州藩では、忠光を匿うことは、幕府を敵視することになるとして、刺客を送りました。忠光はそれを察し、四恩寺（下関市豊北町田耕地区）に避難しようとしたが、途中長瀬の渓谷で殺害されました。昭和38年（1963）、豊北町では、忠光卿の100年祭を記念して同地に「本宮」中山神社を建立した。①は忠光の父、②④⑤は天誅組総裁

Q111 なかやま ただみつ 中山忠光は幕府の目を逃れて、長府藩内を転々と移動しています。彼が一時隠れていた延行（のぶゆき現在の下関北運動公園の近く）に関する説明のうち、誤りはどれでしょうか。

- ① げんじ かんねん 元治元年（1864）1月から約6ヵ月間、隠れ住んでいた。
- ② 延行では恩地トミが当初から忠光の世話をした。また警護の武士などもいた。
- ③ 現地には昭和11年（1936）に建立した「中山忠光朝臣隠棲之地」の石碑があり、題字は内大臣湯浅倉平が揮毫している。
- ④ 延行の次は、安岡村庄屋・村田庄三郎宅へ転居した。
- ⑤ 現地には石碑の前に井戸があり、また詳細な説明板も置かれている。

答え ②

解説 中山忠光は延行に元治元年（1864）1月4日から約6ヵ月間、隠棲していました。7月4日夜、安岡村庄屋・村田庄三郎宅着。7月6日には舟で湯玉村庄屋・石川良平宅へと転居します。（石川良平はのちの赤間関2代目市長。娘トモは山縣有朋夫人）以後も転々と隠れ場所を移転し、ついに11月5日（8日とも）たすき田耕で非業の最期を遂げました。恩地トミは元治元年6月頃、忠光の側女となります。彼女は赤間関の商家の娘ですが、面長な美人で教養もあり、従順で気立てがよく、よく忠光に仕えました。忠光も気に入り、仲睦まじかったそうです。また、警護役の長府藩陪臣・国司直記ら三名の

供がいました。（「中山忠光暗殺始末」西嶋量三郎著より）

Q112 江戸時代末期、蛤御門の変に参加した長州の四参謀は、後に野山獄で処刑されましたが、その四参謀の内の一人は、処刑されるまで現在の豊田町長正司の中野家に「お預け（軟禁）」になっていました。さて、その一人は次のうち誰でしょう。

- ①高杉晋作 ②竹内正兵衛 ③佐久間佐兵衛 ④中村九郎
⑤宍戸左馬介

答え ⑤宍戸左馬介

解説 元治元年（1864）7月19日、京都御所の蛤御門の政変に失敗した長州藩は、幕府から責任者の処罰を責められ、4人の参謀たちを処刑することになりました。蛤御門の変の後、長州に逃れていた宍戸左馬介（まぎみ）（真微とも言う）は、現在の豊田町長正司の中野家に「お預け（軟禁）」になっていましたが、藩からの呼び出しがあって、野山獄で処刑されてしまいました。

🎧 Q113 伊崎には慶応元年（1865）高杉晋作が長府藩士の夜襲を受け、隠れていたと伝えられる井戸があります。映画の撮影も行なわれた、この井戸の名前は何でしょうか。

- ①徳利井戸 ②隠れ井戸 ③瓢箪井戸 ④瓢井戸
⑤晋作井戸

答え ③瓢箪井戸

解説 高杉晋作は長崎から上海に渡航しようとしたが、長崎でグラバーに説得され下関を開港したほうが得策と考えました。だが、開港予定地は、本藩や長府藩の土地が入り組んでおり、これを本藩領にしようとしたため命を狙われることになりました。慶応元年（1865）4月、馬関開港や馬関換地論などで、長府藩士に命を狙われた高杉晋作は、

四国へ脱出します。その前に夜襲を避けて終日、身を隠したと伝えられている徳利小路の瓢箪井戸が伊崎にあります（史実は不明）。この井戸の中に身を隠し、丸一日潜伏しこれがもとで体をこわしたと伝えられています。この井戸では映画「ヘレンケラーを知っていますか」の撮影が行なわれました。失明した北崎絹子（小林綾子・おしん）が、治りたい一心で水垢離を取る場面を撮影しました。

※個人の敷地内ですので見学にはご注意を。

Q 114 下関は「明治維新発祥の地」と言われています。萩の俗論派政府を武力で倒し、藩論を尊皇倒幕に統一しようと決意した高杉晋作は、わずか80名を率いて功山寺で決起します。明治維新の基をつくったと高く評価される、元治元年（1864）12月15日深夜の挙兵に、参加しなかったのは誰ですか。

- ①所郁太郎 ②森重謙蔵 ③高橋熊太郎 ④太田市之進
⑤石川小五郎

答え ④太田市之進

解説

この挙兵で高杉晋作が最も期待したであろう奇兵隊は、決起しませんでした。赤祢武人は俗論派政府と交渉していました。また幕府の長州征伐の大軍がまだ広島にいたので、慎重な山縣狂介（有朋）は「時期が悪い」と反対し、諸隊の隊長も反対します。いったん高杉に同調した御楯隊総督太田市之進（御堀耕助）も、赤祢たちに猛反対されて離反します。四面楚歌のなか、高杉に従って挙兵したのは伊藤俊輔（博文）率いる力士隊20名と、軍監高橋熊太郎の遊撃隊60名、合わせてわずか80名程でした。この中には、佐世八十郎（前原一誠）、石川小五郎（河瀬真孝・のち英国公使など）、所郁太郎（美濃出身の医者、遊撃隊医官、参謀。井上聞多が山口で俗論派に襲撃され瀕死の重傷を負ったとき、傷口を縫って応急処置をしたことは、よく知られている）達もいました。元治元年12月15日深夜、私兵でない証とするため、功山寺に潜居中の三条実美ら五卿を

訪ねた高杉晋作は、「これよりは長州男児の肝玉をお目にかけて申す。」と挨拶します。そして雪の功山寺を後に、新地の長州藩出先役所である新地会所襲撃に向かいます。出発しようとする高杉の馬前に、彼の親友奇兵隊軍監福田侠平（公明）が座り込み「高杉君、君は獄中の苦しみを忘れたのか。」と大声で止めたと言われています。この時、高杉はやや躊躇したといえます。心を許した親友の言葉ですから、ほんの少しの迷いが彼の胸中をよぎったのでしょうか。砲隊長の森重謙蔵が大声で「総督、速やかに馬を進め給え」と叫びます。高杉は決然として鞭をふるい進軍は開始されました。まさに日本の歴史を変えた瞬間です。「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し」。伊藤博文の名文は、この挙兵を思い起こして書いたものと思われる。この功山寺挙兵の成功をきっかけに、維新回天へと時代が大きく動きました。

Q115 高杉晋作は菅原道真^{すかやらのみちざね}を尊敬し、深く慕っていました。天神様を信仰し、梅を好み、奇兵隊の旗も「菅原大神」を用いています。晋作は道真の、どういうところを最も尊敬し、慕ったのでしょうか。

- ①遣唐使の廃止を建議するなどの、果敢な政治力。
- ②書が上手。
- ③詩が巧み。
- ④学問が深く高い。
- ⑤尊王朝の志。

答え ⑤尊王朝の志

解説 菅原道真^{えんざい}は冤罪^{えんざい}で大宰府へ流されても、天皇陛下を深く慕い、詩「九月九日」を詠んでいます。晋作は、その尊王朝の志を深く慕ったのです。

去年の今夜清涼^じに侍^{しゆうし}す 秋思^{はらわた}の詩篇^{おんし} 独り腸^{ぎよ}を断つ 恩賜^{おんぎ}の御衣^{ぎらい}
 今此^{ここ}にあり 捧持^{ほうじ}して毎日余香^{よこう}を拝す

安政六年（1859）江戸昌平^{しやうへい}塾^{じゆう}で、晋作と同門の久留米藩士田中子復も道真公の徳を慕っており、道真ゆかりの都府楼^{とふろう}の古瓦を求めて硯

にしました。晋作は田中に「君がこの瓦硯を愛するのは都府楼の古を愛するのか、或はまた公の徳を慕っているのか」と問います。田中が「道真公の徳を慕っている」と答えると、晋作は次のように語ります。「・・・それ菅公の宇多帝に事^{つか}うるや常に外戚を卑しめ王朝を尊ばんと欲す。身は筑紫に貶^{おと}さるといえども、志未だかつて王朝にあらざるはなし。故に公の徳を慕わんと欲すれば、その尊王朝の志を慕わずして、いづこにかこれを慕うものあらんや・・・」菅原道真は藤原時平の讒言^{ざんげん}によって、九州大宰府に左遷されました。それでも「尊王朝」の志は忘れなかった。晋作はそれを見習って、王朝を尊ぶ志で仕事に励むようにと、田中に語ります。（以上は「都府楼瓦硯の記」より）高杉晋作の天神信仰が、尊皇精神から生れたことがよく分かります。長府には道真公が大宰府へ流される途中、自分の姿を映したと伝えられる「御影^{みかげ}の井戸」が現在も残っています。

● Q 116 高杉晋作は、戦死した同志の霊を慰め、残るものも死を常に覚悟して臨むため、生墳を築く必要があるとして、招魂場を設けることを提唱しました。こうして実現した招魂場には、同じ規格の霊標391柱が整然と並んでいます。さて、この神社は何神社でしょうか。

- ① 巖島神社 ② 大歳神社 ③ 桜山神社
④ 亀山八幡宮 ⑤ 中山神社

答え ③ 桜山神社

解説 高杉晋作は、戦死した同志の霊を慰め、また後に残る者も、死を常に覚悟して時局に望むため、生墳を築く必要があるとして、共同の招魂の場を設けることを提唱します。場所も新地町の背後にある小丘の「岡の原」に決定、慶応元年（1865）7月に上棟式が行われ、8月には招魂社落成の祭典が行われました。招魂場には先覚の師・吉田松陰の霊を祀り、慶応2年（1866）の小倉戦争の戦死者を祀り、周囲には桜の木を植え、人々はこの岡の原を桜山といひならわすようになりました。桜山神社の招魂場では身分の区別なく、同じ規格

の靈標391柱が整然と並んでいます。

Q 117 長府藩士三吉慎蔵は、坂本龍馬の命の恩人といわれています。二人の交流についての説明で、誤りはどれでしょう。

- ①三吉慎蔵は慶応2年(1866)元旦、長府藩士印藤聿の紹介により白石正一郎宅で龍馬と出会った。
- ②慶応2年1月23日夜、二人は伏見寺田屋の二階で幕吏に襲撃された。
- ③龍馬はピストルで戦うが負傷したので、三吉が護衛して脱出。共に伏見の薩摩屋敷に潜伏した。
- ④三吉を強く信頼した龍馬は、慶応3年(1867)三吉あてに「万一の場合は、お龍の^{りょう}ことを託す」という意味の書簡を書いた。
- ⑤龍馬没後、三吉は彼との約束を守り、お龍を伊藤本陣から自宅に引き取り、のち土佐に送っている。

答え ①

解説

慶応2年(1866)元旦、時勢探索のため上京の藩命を受けた三吉慎蔵は、印藤聿の紹介により下関城之腰の福永専助宅で初めて龍馬と会いました。この後二人は同道して京都に行き、伏見寺田屋の事件となります。1月23日夜、薩長同盟締結の大役を果たして寺田屋に戻った龍馬を、伏見奉行所の幕吏が襲撃。このとき異変を察知した「お龍」は、風呂場から裸体で2階に駆け上がり急を知らせます。三吉は得意の槍で応戦。龍馬は下関を出発する際に高杉晋作から贈られたピストルで戦いますが負傷します。2人は寺田屋を脱出しましたが、龍馬は傷のため材木小屋に身を潜めます。三吉が1人で伏見の薩摩藩邸に行き危急を告げ、薩摩藩兵が龍馬を救出しました。三吉は西郷隆盛から龍馬救出の礼に帷子と詩を贈られました。さらに帰国後、龍馬救出の功により萩藩主毛利敬親から新身刀と褒状を賜ります。また長府藩主毛利元周から二十石の加増を受けています。

● Q118 坂本龍馬が愛用した拳銃は2丁ありました。このうち最初の一つは、長州のある人から贈られたものです。さて龍馬に拳銃を贈った人物はだれでしょうか。

- ①伊藤九三 ②印藤聿 ③桂小五郎 ④高杉晋作
⑤三吉慎蔵

答え ④高杉晋作

解説 龍馬が愛用した拳銃は2丁ありました。ひとつは高杉晋作から贈呈されたS&Wモデル2アーミー32口径で、寺田屋事件の際に実際に使ったのはこの銃です。しかし寺田屋事件のときに紛失してしまい、後に買い求めたのがS&Wモデル1・22口径です。この銃は妻・お龍とともに1丁ずつ所持し、薩摩滞在時はこれで狩猟などを楽しんだといえます。当然この銃は暗殺された時も携帯していましたが、発砲することなく殺害されました。

Q119 坂本龍馬は下関と大変縁が深く、何回も訪れています。ことに慶応3年（1867）2月からは伊藤本陣を本拠とし、妻お龍と共に生活しています。下関の中で龍馬が訪れていないのは、次のどこでしょうか。

- ①白石正一郎宅 ②三吉慎蔵宅 ③入江和作宅 ④巖流島
⑤豊功神社

答え ⑤豊功神社

解説 長府毛利家の霊廟として忌宮神社境内に豊功社を創建したのは、慶応2年（1866）です。明治10年（1877）豊功神社と改称。大正6年（1917）豊功神社を現在地（長府宮崎町）に移し、この地にあった松崎八幡宮を合祀しました。龍馬は慶応3年（1867）11月15日、京都近江屋に中岡慎太郎といるところを刺客に襲われ死亡しました。その悲報を妻お龍は伊藤本陣で聞きました。龍馬は白石正一郎宅をはじめ、西の端の入江和作宅や長府の三吉慎蔵宅（現・松

岡医院あたり) など多くの場所を訪ねています。妻お龍が、明治32年(1899)に語った回顧談「千里の駒後日譚拾遺」によれば、龍馬とお龍が三吉慎蔵の家にいた頃の話として、「・・・巖流島へ皆と花見に行きました。ある晩龍馬と二人でこっそりと小舟に乗り、巖流島へ上がって煙火^{はなび}を挙げましたが・・・」(要約)と語っています。

Q120 坂本龍馬は慶応3年(1867)伊藤本陣に妻お龍と共に住み、その部屋を「自然堂」と称していました。彼は近くにあった国内屈指の遊郭、稲荷町^{いなりまち}で遊び朝帰りをして、お龍に責められていたところ、たまたま訪ねて来た人物に三味線を爪弾いて俚謡を歌い、お龍も機嫌を直したという話があります。この人物は誰でしょうか。

①三吉慎蔵

②印藤聿^{いんどうのぶる}

③品川省吾

④梶山鼎介^{かじやまていすけ}

⑤熊野直介

答え

④梶山鼎介

解説

坂本龍馬は慶応3年(1867)2月頃から、伊藤本陣の一室を借りて「自然堂」(じねんどう・しぜんどう)と称し、長崎から呼んだ妻お龍と共に生活していました。朝帰りをした龍馬が歌った俚謡は「こい(恋)わしはん(思案)のほかとやら(略)・・・」。龍馬自筆のこの俚謡は、梶山鼎介が貰い梶山家が所蔵していましたが、現在は長府博物館の所蔵となっています。梶山鼎介は「萬骨塔靈石譜」に次のように書かれています。(大要)『長府藩士梶山栄作の長男。尊皇の志厚く、元治元年(1864)11月同志と一死報国を誓い青年隊を結成し、報国隊の本部役員となった。慶応元年(1865)3月、藩内恭順派目付役林郡平を斬り、角島に流された。明治元年(1868)報国隊軍監として北越で転戦。維新後藩の参与となり、命によって欧米に2年間留学。西南の役では陸軍少佐として本部付。明治19年(1886)外務省書記官に転じ、同24年(1891)朝鮮の京城に弁理公使として任じられた。同26年(1893)退官して郷里に帰り、一時衆議院議員となる。昭和8年(1933)3月没。年86歳。』

Q121 四境戦争の長州軍の勝利は、倒幕の時期を早めたと言われています。坂本龍馬は小倉口の戦いで、高杉晋作に協力して共に戦っています。この時、龍馬は長州藩の軍艦に乗り組み奇襲攻撃をしましたが、その軍艦の名前はどれでしょうか。

- ①乙丑丸 いづちゅうまる ②丙寅丸 へいじんまる ③庚申丸 こうしんまる ④癸亥丸 きがいまる ⑤丙辰丸 へいしんまる

答え ①乙丑丸

解説 高杉晋作が指揮を任された四境戦争小倉口の戦いは、慶応2年（1866）6月17日未明から始まりました。軍艦5隻に乗組んだ長州軍は、下関海峡を渡り対岸に奇襲をかけます。長州軍は奇兵隊・長府藩報国隊など約1千名。幕府軍は小倉城を本拠に、小笠原長行 ながみち 総督が率いる約2万（5万とも）名。常識で考えれば長州軍が勝てる戦ではありませんでした。高杉晋作は自分が独断で買った軍艦丙寅丸（アームストロング砲搭載）に乗組み、癸亥丸、丙辰丸と共に田野浦を艦砲射撃します。龍馬は乙丑丸（櫻島丸）に乗り、庚申丸と共に旧門司の砲台を艦砲射撃します。この時、甲宗八幡神社本殿 こうそう が炎上した他、民家にも相当な被害が出ました。長州軍は田野浦、門司を一旦占領し、焼き払って下関に上げます。この戦いは「日本最初の近代砲撃戦」と言われており、龍馬はこの海戦を絵図入りの手紙で土佐に知らせています。また山縣有朋は奇兵隊を率いて上陸しています。

山縣有朋の歌

水無月十七日 豊前国門司にうち入りけるとき
浪さわく硯のうみの ゆふたち（夕立）に かきくもりたる
筆たてのやま

Q122 坂本龍馬は、四境戦争小倉口の戦いの様子を「海戦図」にして残しています。龍馬筆画の「海戦図」の複製を下関市内に展示していますが、それは何処 どこ でしょうか。

- ①火の山展望室
- ②みもすそ川公園
- ③日和山公園
- ④海峡ゆめタワー30階展望室
- ⑤海峡ゆめタワー28階展望室

答え ④海峡ゆめタワー30階展望室

解説 四境戦争小倉口の戦いは、慶応2年（1866）6月17日未明から始まりました。軍艦5隻に乗組んだ長州軍は、対岸の幕府軍を奇襲攻撃します。高杉晋作に依頼された坂本龍馬は、乙丑丸いっしゅうまるに乗り旧門司の台場を砲撃しました。龍馬は「日本最初の近代砲撃戦」といわれる、この海戦の様子を「海戦図」にして土佐へ送っています。龍馬筆画の「海戦図」の複製は、海峡ゆめタワー30階展望室に展示してあります。そこからは「海戦図」に描かれた下関海峡が一望できます。

Q123 慶応2年（1866）四境戦争小倉口の戦いの中で、7月27日に行なわれた小倉城下近くの赤坂の戦闘は激戦でした。幕府軍の猛反撃を受け、奇兵隊小隊司令山田ほうすけ鵬輔ら20余名が戦死します。この時、幕府軍の主力となって戦い、長州軍を最も苦しめたのは、どの軍勢でしょうか。

- ①小倉藩
- ②肥後藩
- ③中津藩
- ④久留米藩
- ⑤唐津藩

答え ②肥後藩

解説 四境戦争の長州藩勝利は、倒幕の時期を早めたといわれます。高杉晋作はその短い生涯に、下関で後世に残る大仕事を五つ成し遂げます。①奇兵隊結成。②四国連合艦隊との講和談判。多額の賠償金は拒否し、幕府が支払うことに。彦島租借を断り、日本の植民地化を防ぐ。③功山寺拳兵で大きく時勢を一変させ、明治維新むとしいの基をつくる。④日本初の招魂場・櫻山招魂場を造る。⑤晋作最後の大事な仕事が小倉口の戦いの指揮をとり、長州軍を勝利に導いたことでした。小倉口の幕府軍は約2万（5万とも）、対する長州軍は奇兵隊、報

国隊を合わせてもわずか1千名ほど。(報国隊の中には、初陣のきの乃木希典まれすけもいました。)常識で考えれば勝てるわけが無い戦いで、長州軍が勝利したのは、①高杉の指揮が勝れていた。②洋式の近代兵器で武装していた。③郷土防衛戦なので士気が高かった。等とされています。高杉は藩に無断で買った軍艦「丙寅丸」に乗組み、活躍します。7月27日、長州軍は3たび海峡を渡り攻撃します。しかし小倉城下近くの赤坂の砲台を死守する肥後藩の猛反撃を受け、長州軍は一時劣勢となります。戦いは13時間も続き、奇兵隊小隊司令山田鵬輔ら20余名が戦死しますが、その遺骸を収容することも出来ませんでした。山田が戦死するのを見た阿部宗兵衛が、負傷した身を駆けつけて山田の首を切り落とし、それを抱いて本陣まで退却したといわれます。現在の小倉北区赤坂の住宅地にある「赤坂東公園」に「慶應丙寅激戦の址」と刻まれた石碑が建っています。現場は急な斜面で、山田らが下から攻め上るところを、上部の砲台から肥後藩兵に狙い撃ちされます。攻めるに難しく、守るに易い地形で、現地に立てば当時の長州軍の苦戦のほどが偲べれます。赤坂には戦死した山田や奇兵隊士などの墓地もあり、関門海峡をへだてて長州・下関が望める小高い場所に墓石が建っています。なお山田鵬輔らの墓は、下関市赤間町ほんぎょうじの本行寺にもあります。

● Q 124 第2次長州征伐での四境戦争で、小倉城に攻め込んだ長州藩の隊士は勝利の記念に大太鼓を持って帰ります。この大太鼓は下関のどこの神社に置かれているでしょうか。

- ① 厳島神社 ② 大歳神社 ③ 櫻山神社
④ 龜山八幡宮 ⑤ 中山神社

答え ① 厳島神社

解説 四境戦争で特に激しい戦いとなったのが小倉口の戦いです。徳川譜代の小倉藩を中心に兵力2万、これに対して長州側は四境に兵力を分散させたため、奇兵隊、報国隊を主戦力とする約1000人でした。

長州軍は激戦に勝利し、小倉城下を占領、小倉城の焼け残った北の楼門から大太鼓を戦利品として持ち帰り、下関の新地町にある巖島神社へ奉納しました。この大太鼓は、いまも巖島神社の境内の太鼓堂につるされています。

Q125 長府の桂弥一は慶応2年(1866)乃木希典らと共に、下関にいた高杉晋作を訪問しました。そのときの高杉の印象や彼が語った言葉などを、後年ある人物に話していますが、その内容はどれでしょうか。

- ①鼻輪を通さぬ離れ牛。
- ②動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し。
- ③君に忠、親に孝、人と交わるに信。
- ④男子というものは困ったということは、決して言うものじゃない。
- ⑤眼光炯炯人を射る偉丈夫。

答え

⑤

解説

玖村敏雄著「吉田松陰の思想と教育」には、次のように記されています。『これは筆者が先年山口縣長府町の故桂弥一翁から聞き得た実話である。たしか慶応2年(1866)の事であったように聞いたが、当時幕府の第二回征長の軍を長州の四境に受ける前か受けた後か、高杉晋作は奇兵隊長として下関の本営に居た。翁はこの年16・7歳であったが、長府のやや年長の青年に伴われて乃木大将達5・6人の同輩と下関に高杉を訪問して行かれたそうである。高杉は眼光炯炯人を射る偉丈夫であったが、翁達の控えて居られる所へ案内せられて来るや歓迎の意を述べ、今日は忙中であるから閑談は出来ぬが、唯一言すると慶長の昔関ヶ原の戦に徳川方と戦って敗れた毛利藩の歴史を忘れてはならぬ旨を言い、それからなお言うべきこともあるが、それは別に小冊子を与えるから、それを読むようにと付加えて去った。後に他の者がその小冊子なるものを一人一人に配ってくれた。それが松陰の「照顔録」であったということである。翁の示されたその本は「松下村塾蔵梓」とある木版刷で半紙24枚のものに表紙をつけ、題簽

しょうがんろくつぱりざごくにちろく
には「照顔録附坐獄日録 單」とあった。』

Q 126 第2次長州征伐（四境戦争）は長州藩が勝利し、倒幕の時期が早まったといわれます。高杉晋作は自分が独断で買った軍艦丙寅丸へいじんまるに乗り活躍しますが、その時の丙寅丸の機関掛は土佐藩浪人田中光頭みつあきが勤めていました。田中が語り残した「維新風雲回顧録」に、彼が機関掛になった経緯が書かれていますが、正しいのはどれでしょうか。

- ①機関の知識がある田中に高杉晋作が依頼した。
- ②機関の知識がある田中が、自分からすすんで申し出た。
- ③素人の田中に高杉晋作が命令して、半強制的になった。
- ④田中は高杉を尊敬していたので、弟子になることを条件に自分から希望した。
- ⑤他に希望する人がいないので、素人の田中が自分からすすんで申し出た。

答え ⑤

解説

慶応2年（1866）6月、大島の幕府軍艦を奇襲したとき以来、丙寅丸の機関掛は土佐藩浪人田中顕介（光頭・維新後は宮内大臣など・伯爵）が勤めました。「維新風雲回顧録」によれば、その経緯は次のとおりです。（大要）『丙寅丸の船員は揃ったが、機関を取り扱うものがいなかった。先年、外国軍艦が馬関砲撃の際、その砲弾が長州の軍艦の機関に命中した。弾丸破裂して機関部に働いていたものは、焼けただれて惨澹たる戦死をとげた。その光景を目撃しているので、誰も彼も恐怖していたからである。機関部に働くものがいなければ、せっかくの船は動かない。したがって戦争は出来ない。「それならおれが、機関掛になってやろうじゃないか」私はすすんで、こう申し出た。「君で結構だ」高杉が承知したので、ただちに機関掛になった。随分乱暴な話で、今から考えると冷汗が流れる。私は船のことについては、何の知識もない。まして機関部の操作などは出来ようはずはない、全くの素人だ。でも、どうにかやったならば船が動かぬことはある

まいと、高を括っていたにすぎない。この素人機関師の手に、生命を託して船に乗り込む高杉以下の壮士も考えてみると、無鉄砲なことであつた。』

- Q 127 高杉晋作は、四境戦争のさなか病に倒れます。慶応3年（1867）4月14日、満で27歳と7か月の短い生涯を閉じました。高杉は死の数日前、最後の力をふりしぼるように「おもしろきこともなき世をおもしろく」と、歌の上の句を書いて、傍らにいた人に、あとを続けるように渡し、「すみなすものは心なりけり」と返した人に、「おもしろい」と微笑をもらしたといわれています。さてこのとき傍らにいて「すみなすものは心なりけり」と書いた人はだれだったでしょうか。

- ① 雅子 ② おうの ③ 伊藤博文 ④ 坂本龍馬
⑤ 野村望東尼 のむらぼうとうに

答え ⑤ 野村望東尼

解説 高杉晋作は、小倉口の激戦を指揮するさなか、病に倒れます。戦列を離れた晋作は、新地の櫻山神社下の小さな家で、愛人おうのと、かつて世話になり姫島から救出をはかった野村望東尼と3人で住むことになりました。病が重くなり、妻・雅子が萩から出てきて看病にあたることになり、新地町の豪商・林算九郎宅はやしさんくろうの離れ屋敷に移りました。そして慶応3年（1867）4月14日午前2時、満27歳と7ヶ月余の短い生涯を閉じました。晋作は、死の数日前、最後の力をふりしぼるように、「おもしろきこともなき世をおもしろく」と上の句を書いて、見舞いに来ていた野村望東尼に後を続けるようにと渡し、「すみなすものは心なりけり」と書いた望東尼の下の句に、「おもしろい」と微笑をもらしたといわれています。

- Q 128 高杉晋作の葬儀は慶応3年（1867）4月16日に行われました。墓の場所は奇兵隊の本陣を置いたゆかりの地で、高杉が死に際して口にした場所としました。自ら「奇兵隊開關総督」と誇った高杉晋作を祀

るにはふさわしいということになったその場所はどこでしょう。

- ①桜山 ②唐戸 ③長府 ④吉田 ⑤小月

答え ④吉田

解説 高杉晋作の葬儀は、慶応3年（1867）4月16日に行われました。死を聞いて駆けつけた山県狂介（有朋）や福田^{ふく だきょうへい}侠平などが相談の結果、遺体は吉田清水山に葬られることになり、葬送の次第は白石正一郎がとりしきりました。吉田の地が墳墓の地に求められたのは、奇兵隊が本陣を置いたゆかりの地であり、高杉が死に際して口にした「吉田へ…」という言葉、吉田の地に葬ってほしいという遺志と解釈してのことです。遺体を吉田に送る際には、たいまつをかざし、これに会したものは実に数千人であったといえます。吉田東行庵にある高杉晋作の墓は国の史跡となっています。

🗨️ Q 129 日和山公園には、高杉晋作像のほかに、維新にまつわるエピソードをもつ灯籠があります。この灯籠はなんと呼ばれているでしょうか。

- ①つかずの灯籠 ②幽霊灯籠 ③維新灯籠 ④涙灯籠
⑤お助け灯籠

答え ①つかずの灯籠

解説 この灯籠はもと壇之浦に置かれていました。観音崎の間屋が海岸で財布を握っていた水死体を見つけて手厚く葬り、そのお金の助けで大金持ちに。主人は霊を慰めるため大きな灯籠を造って壇之浦の海岸に建立。そして維新の頃、報国隊が招魂場をつくることとなり、この灯籠を運ぶ途中で料理屋にぶつけ店を壊して、文句を言った主人を返り討ちに。主人は「灯籠の灯を消してやる」と恨みの言葉を残して死んだそうです。以来、この灯籠に火をつけてもすぐに消え「つかずの灯籠」と呼ばれるようになりました。昭和11年（1936）に貴船町（旧豊町清水坂）から日和山に移されました。